

事業所名	恵和青年寮		
開催日時	令和8年2月7日(土) 15時00分～16時30分		
開催場所	社会福祉法人恵和 法人本部 恵和館2階ホール		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	3名	施設長、副施設長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	4名	
	地域の関係者	1名	近隣住民
	福祉に知見を有する方	0名	
	経営に知見を有する方	0名	
	市町村担当職員	0名	
議題	<p>(1) 主催者挨拶・出席者自己紹介</p> <p>(2) 地域連携推進会議の目的</p> <p>(3) 事業所からの報告（・事業所の取組み・利用者状況・事故報告、ひやりはっと・運営状況）</p> <p>(4) 施設見学</p> <p>(5) 見学後の感想、意見交換</p> <p>(6) その他</p>		
協議内容・意見等	<p>(1) 主催者挨拶・出席者自己紹介</p> <p>(2) 地域連携推進会議の目的の確認 ・地域連携推進会議の目的の確認「地域連携会議の手引き」参照。 【簡略内容】 地域連携推進会議は、地域における関係機関・関係者が情報を共有し、連携体制を強化することで、利用者が安心して地域で生活できる支援体制を構築・推進するために開催する。（居住サービス義務化）</p> <p>(3) 事業所からの報告（①利用者状況 ②事故報告、ひやりはっと ③事業所の取組み ④運営状況）</p> <p>①利用者状況の報告 ・利用者数、平均年齢、障害支援区分、在籍年数等を報告、説明</p> <p>②事故報告、ひやりはっと等の件数、事故概要の報告、説明 Q.施設のハード面の改善によって、事故件数が減少する可能性があるのか。 A.浴室等の環境で発生した事故については、原因を踏まえた環境調整を実施しており、事故防止につながる と考えている。</p> <p>③事業所の取組み、短期入所稼働率等の報告、説明 Q.短期入所は何泊から該当するのか。 A.1泊から短期入所に該当する。 Q.短期入所でありながら、本入所と同様に利用が長期化している事例はあるか。 A.実際にある。養育者が急死し住まいを失った方が利用しており、約2か月間の利用となっている。 Q.短期入所の最大利用日数はどのくらいか。 A.基本は30日を上限としているが、ケースワーカーの判断により延長される場合がある。 なお、年間では180日が上限となっている。 Q.短期入所の利用の流れはどのようになっているか。 A.計画相談員、区のケースワーカー、家族からの相談・調整による利用が多い。また、利用日数は2泊3日 程度が多い。 Q.短期入所の部屋数はどのくらいあるのか。 A.基本は4床であるが、入所者がいない居室を活用しており、現在はおおむね6床程度で運用している。 Q.当局の評価はどのようなものか。 A.概ね稼働できている点について、評価されていると認識している。 意見:過去に冠婚葬祭時に短期入所を受け入れてもらい、大変助かった経験がある。</p>		

④運営状況

・事業所の資金収支（資金収支明細書）の報告、説明

Q.事業所に所属していない総務部や健康管理室等の人件費は、どのように処理しているのか。

A.各事業所に振り分けたうえで、按分して人件費を計上している。

・横浜市の入所選考方法の変更及び入所申込者（令和7年10月～）の説明

【簡略内容】令和7年10月以降、横浜市の障害者支援施設等へ入所申込する際は計画相談支援の関与が原則となり、申込者の障害支援区分・世帯状況から入所優先度を定め、必要性の高い方から選考する仕組みに変更された。

Q.横浜市内において、どの施設をどのような基準で応募すればよいのか分かりにくいのではないか。

A.応募できる施設は最大で5か所だが、1か所のみを選択して応募する場合もある。

意見（ご家族）：地域のネットワークによる口コミ情報も判断材料になっている可能性がある。

意見（職員）：短期入所の利用経験が、施設選択において大きな要素になっていると考える。

Q.〇〇さん（利用者名）、青年寮（入所）での生活はどうか。

A.楽しかった。台湾に来てからは迷惑をかけたと思っている。花(の家)に来てからは、月に遊びに行っている。ただ、月(の家)は少しうるさいと思う。

(4) 施設見学（生活棟、活動室の見学実施）

(5) 施設見学後の感想、意見交換

○見学後の感想・意見交換（見学しての感想、印象、気になった事等）

(利用者ご家族より)

- ・見学を通じて、家族として何か手伝えることがないかを考える機会になった。例えば、掃除などの手伝いが考えられるとの意見があった。
- ・活動室が有効に活用されていることが分かった。以前は何もなかったが、変化が見られて驚いた。
- ・他の保護者にも見学の機会があるとよいのではないか。また、たちばな会（家族会）の懇談会について、見学会に変更することも検討してよいのではないか。
- ・以前は建物が完成してもユニット内で過ごすことが多かったが、現在は毎日作業に出ることができている。当時との違いを感じており、その変化に感謝している。

(事業所職員より)

- ・課題となる行動が見られていた自閉症のある利用者については、支援体制の整備を優先的に行った。そのほかの利用者については、状況に応じた別の職住分離の方法を提供している。運営にあたっては、生活介護の報酬との関係も含め、収支のバランスに配慮している。
- ・介護保険が適用される施設の利用についても、今後は検討してよいのではないかと考えている。短期入所からデイサービスへの切り替えなど、急激な変更ではなく、利用者の状況に応じたゆるやかな移行が望ましい。特に、身体介助の必要性が高くなってきた利用者については、無理に抱え込むのではなく、介護の専門職に任せる部分を取り入れることも重要だと捉えている。
- ・グループホームでの生活を考えると、段階的でグラデーションのような移行が可能になることが重要だと考えている。入所生活では利用できないサービスが多く、ある日を境に一気に切り替える形は、利用者にとって心理的・生活上のダメージが大きい。利用者の負担をできるだけ抑えるためにも、連続性のある移行の在り方を検討していく必要がある

(6) その他

・今後の「地域連携推進会議」の在り方等の意見交換

・開催時期

意見：10月から11月頃が気候的にも適当ではないかと考えている。

・開催内容（家族や地域の方が知りたい情報は？）

意見：給食を実際に食べられる機会があるとよいのではないか。

意見：他施設の見学会も実施できると、比較対象ができ理解が深まるのではないか。